

エルミタージュでの最初の朝食は我が家の定番、ごはん、味噌汁、糠漬け、鮭の塩焼き、ほうれん草の胡麻かけである。大好きな納豆はやめて、焼き海苔を出した。彼女は上手にお箸を使った。「なんでもご自由になさってね」と言っても、日本は非常に「礼儀正しい国」という情報を与えられたようで、失礼があってはならないと思ひ込み、丁寧にゆっくり食事された。必死で食べているという感じもあった。



のんびり午前中を過ごしてから、みなとみらいホールで開催されている1ドルオルガンコンサートにお連れした。その日のプログラムは「ドイツ3大B X Lucyの響演」で若い長谷川佳子さんの演奏だった。ベートーベンの「運命」を、赤くライトアップされたオルガンで聞くのは初めての経験だった。続いてブラームス、バッハの曲はイネスさんにとって非常に居心地の良いものだったに違いない。多くの聴衆とともに素晴らしい響きを堪能した。ホールの木の質感も素晴らしいと褒めてく

れた。コンサート後にしばらく余韻を楽しんでいると、和服姿の女性が連れ立って私たちの席の側に来て、オルガンを背景に写真を撮っておられた。話しかけると、喜んで着物の説明をしてくれた。イネスさんはうっとりとして眺めて、たまらなく素敵というジェスチャーをして、ここでも彼女たちを褒めてくれた。

クイーンズ・イーストのプロムナードでサクスケルツェットによる演奏があった。サクスケルツェットとは、サクソとスケルツァンド(楽語:愉快地、たわむれるように)を融合させた造語で、究極のサクソフーン・アンサンブルの姿を追求する、洗足学園音楽大学のサクソフーン講師陣によるアンサンブルとのこと。サクソという楽器を考案されたサクソの生誕200年記念コンサートのための宣伝を兼ねた「秋プログラム」だった。クラシックから、日本の童謡、ビートルズなど、多彩な楽しい演奏を楽しんだ。



楽しい音楽の後は、象の鼻公園方面へ向かってブラブラ。ドックの跡地や日本丸の帆船など、海に関するものは内陸部に住む彼女には初めて近くで見えるものだった。横浜は150年位の歴史しかないのに、日本とは思えないような景色に変貌している。横浜と言えば、海岸教会。そこを紹介したくてそちらへ回ったが、ちょうど改修工事中だった。元の教会堂の姿を残しつつ、内部を徹底的に作り替えている。1859年以降、まだ、キリスト教禁制下の日本に多くのプロテスタントの宣教師が危険を冒しつつ、派遣され、各地で伝道を開始した。そして1872年に、アメリカ改革派教会のバラ宣教師夫妻によって日本に最初に誕生したのが横浜海岸教会である。その1年後の1873年にやっと禁制が解かれた。

横浜の関内には父が牧師をしていたメソジスト派の横浜蓬莱町教会もあった。戦争で焼かれ、米軍に接収された。現在は上原に教会がある。関内あたりに教会があったならどんなに良かったろうと残念に思う。馬車道を歩きながら、遅いランチに「ラーメン・餃子」を食す。イネスさんは餃子を始めて食べたという。4年前に中国へも旅行しているのに、餃子を食べなかったそう。

夜はゆっくりエルミタージュで、すき焼きを囲むことにした。ドイツ人は食生活の変化を好まない。伝統的な同じものを食べ続けるエネルギーには感心する。イネスさんはすき焼きの美味しさにやはり参ったのではないかと。柔らかく、ジューシーな和牛は最高だ。食に関しては日本人であることが誇れる。